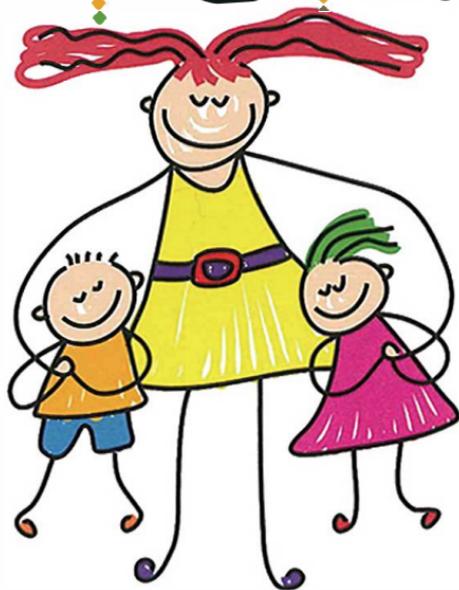


新装改訂版

中国の子供は どう中国語を 覚えるか

李 凌燕 ◆ 著
納村公子 ◆ 編者
Li Lingyan & Kimiko Namura

◆ ◆ ◆ ◆
数々の微笑ましい
エピソードを通して
中国語の生きた表現や
文法が身につきます。
◆ ◆ ◆ ◆



語研

本書は 1996 年に、はまの出版から刊行された
『中国の子供はどう中国語を覚えるか』を
一部加筆・修正し、再刊行したものです。

目次



はじめに

- ♥ ママ、この道ないよ 9
- ♥ 東京も北京も京京が好き 11
- ♥ どうしてテレビは中国語をしゃべらないの？ 13
- ♥ ブロック遊びと道路工事 14



第1章 発音・あいさつ言葉・名詞

- ♥ 文字を知らなくても会話はできる 19
- ♥ 赤ちゃんはじっと耳を傾ける 20
- ♥ 声調が正しければ通じる 22
- ♥ 赤ちゃんのお遊び 23
- ♥ 遊び歌 26
- ♥ 初めての言葉は何語？ 34
- ♥ みんなが覚えた「おしっこ」 37
- ♥ おしめより股割れズボン——开裆褲 39
- ♥ 子供のあいさつと家族の呼び名 41
- ♥ 丁星おじさんが名前と呼ばれるわけ 43
- ♥ 【你好】はたまにしか言わない 46



- 🍷 京京は名詞を逆にした 48
- 🍷 私のおなかには階段がついている——体の部分の名称 50
- 🍷 男女の体の違い 52

- ★ 「ハイ」と「欸」, 「うん」と「嗯」 32
- ★ 「爬」から「站」そして「能走」は畳のおかげ 53



第2章 動詞述語文・形容詞述語文

- 🍷 1歳半から2歳は電報文の時期 57
- 🍷 「ママ、私これほしいの」と「公園に行って遊んだの」
——連動文 60
- 🍷 私クマさんの箸でご飯食べたくない——連動文 61
- 🍷 チャボさん水食べてる——「吃」と「喝」 64
- 🍷 「おうちをつくる」と「家を建てる」——「做」と「盖」 67
- 🍷 これどこからやるの? ——「弄」 68
- 🍷 「来」は赤ちゃんのとき覚えた 70
- 🍷 ウサギさんはいつ帰ってくるの? 76
- 🍷 京京が「回去」で泣いた日 79
- 🍷 子供にはむずかしい「来」と「去」 80
- 🍷 頭の中から「想出来」 83
- 🍷 あれがほしい・これやらないよ——助動詞「要」と「给」 84
- 🍷 クリスマスツリーがほしい——助動詞「想」と「要」 88
- 🍷 飛行機はなぜ飛べるの? ——「会」と「能」 91
- 🍷 おサルさんはどうして枕の上で寝るの? ——「能」 100
- 🍷 おもしろい・かわいい——「好玩儿」 103

- ♡ かわいい・愛する—— [可愛] 105
- ♡ ヨリ先生はママよりきれい—— [漂亮] 107
- ♡ [早] じゃないよ [快] だよ 110
- ♡ 大きいのがほしい 112
- ♡ すごくかわいい・とってもはやい
—— [可…了!] [多…呀!] 113
- ♡ ママは [太…了!] で奔走する 115
- ♡ [最] はわからないが「いちばん」はわかる 118

- ★ 東京のウサギとカメ 73
- ★ 唐詩を覚える 97
- ★ 名前に託した親の思い 120



第3章 子供のしつけと言葉・否定文

- ♡ 子供のしつけ—— [別] と [不能] 125
- ♡ 私と [小朱] との [讨厌] な仲
—— 子供の使う悪い言葉 135
- ♡ ママできないの、バカね—— [笨] 138
- ♡ [打屁股] は正しい教育法か 141
- ♡ 子供がこわがるもう一つの [打] 145
- ♡ 体の現象で [打] すること 146
- ♡ お話で [打] すること 147
- ♡ 便秘解消のチョコレート作戦失敗す—— [不] 148
- ♡ 毛主席にはおうちがないの—— [没有] 152
- ♡ 「公園に行っていない」は [不] か [没有] か 155



第4章 量詞・副詞

- 🍵 私は白ウサギちゃん——量詞 161
- 🍵 もうちょっとちょうだい—— [一点儿] [有一點儿] 165
- 🍵 一粒のアメの思い出—— [也] 167
- 🍵 私、みんなは食べてないもん—— [都] と [还] 173
- 🍵 [再給…再給…] のしぶとさ 177
- 🍵 もう教えてあげないからね—— [就] 181
- 🍵 もうわかったわよ—— [已经] と [老] 186
- 🍵 先にご飯を食べて、それからスープを飲むの
—— [先…然后…] 188

★なぞなぞ——谜语 171

★早口言葉——绕口令 185



第5章 介詞・助詞

- 🍵 これどこで買ったの—— [在] 193
- 🍵 どうぞ私に牛乳をついでください—— [请给我…。] 194
- 🍵 ママ、私がやってあげるね—— [让我给你…。] 196
- 🍵 オオカミはウサギを食べちゃいました—— [把…给…。] 200
- 🍵 ねえママ、聞いて、お話があるの—— [跟你说一句话。] 204

- ♥ 京京はなぜいつも [跟妈妈] なのか 205
- ♥ 昨日私たちちょうど歩いてたでしょ—— [着] 207
- ♥ 私ここに行ったもん—— [过] 213
- ♥ 明日、保育園に行かない—— [了] 215
- ♥ 京京はどのように漢字を覚えているか 218

★京京とパパのかくれんぼ 210

あとがき 225



装丁——小林はる代

本文イラストレーション——納村公子・汪海曦



はじめに

👉 ママ、この道ないよ

妈妈，这条路没有！ Māma, zhè lù méiyǒu!

4歳になった娘の京京が、ある日こんなことを言いました。保育園から彼女を引き取り、自転車でいつもの道を走っていた時のことです。その日はちょうど道路工事をしていて歩行者や自転車は舗道の外を迂回しなければなりませんでした。京京はこのようすを見て「ここの道がなくなっちゃったよ」と言いたかったのです。でもこれは正しくない中国語です。ほんとうは「这儿没有路了。Zhèr méiyǒu lù le.」と言わなくてはなりません。

彼女のまちがいは日本人のよくするまちがいと同じでした。つまり「ここの道がなくなった」という日本語の語順と同じなのです。同じ年の子供でも、本国で生活している子供ならばおかしことのないまちがいです。

京京は1991年8月、東京で生まれました。いまはもう17歳になっています。日本で生まれ、幼い時期を過ごしたあのこと、まだたどたどしく話をしていたあことはもうずいぶん遠い昔のことになりました。でも私にはいまも昨日のことのように思えるのです。

京京は7年間、日本で生活しました。その間、一時帰国して半年ほど北京で暮らしましたが、そのとき以外はだいたい日本で生活していました。そんなわけで、彼女は生まれたときから日本語の環境で生活していたのです。

京京の日本語歴は私のおなかの中にいたときから始まりました。当時私は来日したばかりで、大学の日本語教室に通って

いました。大きなおなかをかかえて勉強していたので、よく「一人分の授業料で二人が勉強している」などと同級生にからかわれたものです。

生まれて7か月で保育園に入り、それからは保育園でも日本語、家の外でも日本語、テレビも日本語と、日本語ばかりとなりました。もちろん、日本に住んでいるのですから、日本語が日常の大部分を占めるのは当然のことです。しかし、日本語に押されて中国語が話せなくなったりしないように、私と夫は娘が赤ちゃんのころから中国語を使って話をするように心がけました。言葉ができなければその国の人間としての意識が形成されないと思ったからです。

こうして、彼女は家の中では中国語、外に出れば日本語という言語環境で生活するはめになったのです。

彼女はよく中国語と日本語をまぜこぜにして話をしていました。あるときも絵本を見ながらこう言いました。

这是小鸟，这是ウサギさん。

Zhè shì xiǎoniǎo, zhè shì usagisan.

(これは小鳥、これはウサギさん)

京京は「ウサギさん」の中国語を知っています。

妈妈：ウサギさん用中文怎么说？

Usagisan yòng Zhōngwén zěnme shuō?

(ウサギさんは中国語でなんて言うの？)

京京：小白兔。Xiǎobáitù。

このようにできるだけ確認させ、教えていきました。でも、逆に、中国へ帰ったときは日本語で話しかける努力をしていました。中国では、日本にいるときとは反対に中国語の環境になり、自然と京京もほとんど日本語を使わなくなります。彼女は日本で

生活するというチャンスに恵まれたのですから、せっかく覚えた日本語を忘れないでほしいと思ったのです。

人間の記憶でいちばん古いのはいつなのか、わかりません。けれど、日本で過ごした7年間は彼女の心にしっかり残り、いまでもあのころ一家で住んでいた大家さんのおばあさんのことを京京はよく覚えていますし、最近は『世界に一つだけの花』がお気に入り、日本語で歌うことができます。

♥ 東京も北京も京京が好き

京京のほんとうの名前は〔汪海曦 Wāng Hǎixī〕といいます（汪は夫の姓で、伝統的に夫婦別姓の中国では、子供は父の姓を名のるのが一般的です）。この名前を日本語で読むと「かいぎ」となり、なんだか会議のようで堅苦しい感じがしてしまうのと、〔曦 xī〕の字が日本人にとってあまりなじみがないということもあり、私たちは彼女に〔京京 Jīngjīng〕という〔小名 xiǎomíng〕（幼名）をつけました。

〔小名〕は子供時代の愛称として〔大名 dà míng〕（本名）のほかにつけるもので、日本の「〇〇ちゃん」というような愛称に似ています。

〔小名〕はたいていだれでも持っています。ちなみに私は4人姉妹の3番目なので、小さいころは〔三三 Sānsān〕と呼ばれ、妹は〔小四儿 Xiǎo Sīr〕と呼ばれていました。〔小名〕のつけ方はとても自由で、私のいちばん上の姉の子で、京京の〔表哥 biǎogē〕（姓の異なるいとこ）にあたる男の子は、トラ年生まれなので〔大虎 Dàhǔ〕と呼ばれています。妹の娘の〔小名〕は〔小叮当 Xiǎodīngdāng〕といいます。この名は昔《小叮当》というタイトルの映画があり、タイトルと同名の主人公の少女がかわいら

しかったこと、そして [叮] が妹の夫の姓である [丁 Dīng] と字が似ていて発音が同じだからということ（姪は母の姓である李を継ぎました）、また [dīngdāng] は鈴の音を表す擬音語で、聞いた感じがとてもきれいだからという理由もあります。[小名] は 80 年代以降、同じ字を二つ重ねて、かわいらしく美しい響きになる名前がよくつけられるようになりました。たとえば [洋洋 Yángyang] [明明 Míngmíng] [笑笑 Xiàoxiao] のように。私の東京も時代の流行に乗ったわけです。

東京の名は、90 年代の私たちが故郷とする北京と、生活している東京に共通する京の字にちなんだものです。東京は 3 歳半のとき、自分の名である京の字をいつの間にか覚えていました。それは、東京にいても北京にいても、町のあちこちでこの字を見かけるので、私たちが教えるより先、自然に覚えてしまったのです。

東京：妈妈，看“京”！Māma, kàn “jīng”!

（ママ、見て京だよ）

妈妈：对，那是东京的京。Duì, nà shì Dōngjīng de jīng.

（そうね、あれは東京の京よ）

北京に帰っても京の字があり、私は [那是北京的京。Nà shì Běijīng de jīng.]（あれは北京の京よ）と教えていました。あるとき、彼女はこんなふうに尋ねました。

妈妈，为什么东京也有我，北京也有我呀？

Māma, wèi shénme Dōngjīng yě yǒu wǒ, Běijīng yě yǒu wǒ ya?

（ママ、どうして東京にも私があって、北京にも私があるの？）

因为东京也喜欢你，北京也喜欢你呀。

Yīnwèi Dōngjīng yě xǐhuan nǐ, Běijīng yě xǐhuan nǐ ya.

（それはね、東京もあなたのことが好き、北京もあなたのことが好きだからよ）

すると彼女はとても得意そうな顔をしました。東京の名は本人

にとっても重要な意味を持つようになったのです。[京京]は中国語では jīngjīng と発音し、日本では「きょうきょう」とか「きょうちゃん」などと呼んでいます。本書中ではおもに京京と表記します。

❖ どうしてテレビは中国語をしゃべらないの？

4歳になってから京京は「为什么 wèi shénme」(なぜ)をよく使うようになりました。その年の秋、2週間ほど北京の「娘家 niángjiā」(私の実家)に帰り、再び東京にもどってきたとき、京京はこんな質問を投げかけてきました。

为什么电视里不说中文？

Wèi shénme diànshìlǐ bù shuō Zhōngwén?

(どうしてテレビは中国語をしゃべらないの？)

为什么日本のおばあさんと姥姥说话不一样？

Wèi shénme Rìběn de obaasan hé lǎolao shuō huà bù yíyàng?

(どうして日本のおばあさんと「姥姥」は話す言葉が違うの？)

「姥姥 lǎolao」は母方の祖母の意味で、北京に住んでいる私の母のことを指します。「日本のおばあさん」は私たちが住んでいたアパートの大家さんのことです。北京のおばあさんはもちろんのこと、日本の大家さんのおばあさんも娘を「京ちゃん」と呼んでとてもかわいがってくれ、京京もよくなつていました。また、京京はテレビが大好き。コマーシャルのキャッチフレーズはよく覚えるし、当時はアニメの『セーラームーン』に夢中でした。北京のおうちで見るテレビは中国語でしゃべっているのに、日本に来ると中国語ではありません。北京のおばあさんも、大家さんのおばあさんも大好きだけれど、どうしてしゃべっている言葉が違うのかしら。

因为姥姥是中国人，おばあさんは日本人。

Yīnwèi lǎolao shì Zhōngguó rén, obaasan shì Rìběn rén.

(〔姥姥〕は中国人で、おばあさんは日本人だからよ)

と説明しても4歳の彼女にはわかりません。小さな京京の心には国境も民族もないのです。あるのはやさしいおばあちゃんたちと大好きなテレビだけ。彼女はそのとき、ごく自然に日本語と中国語をあやつって生活していました。国や民族のことはわからなくても、世の中に〔说中文的人 shuō Zhōngwén de rén〕(中国語を話す人)と〔说日文的人 shuō Rìwén de rén〕(日本語を話す人)がいて、中国語を話す人には中国語で、日本語を話す人には日本語で話をすればいいのだということが、だんだんとわかってきたのでした。

京京は二つの言語を日常生活から覚えていきましたが、おとなになって外国語を学ぶとしたら、ふつうは大学や専門学校の教室で先生についてテキストを見ながら勉強するものです。しかし、だれでも母語は日常のあらゆる営みの中から育み身につけていくものです。だからこそ言葉に血が通い、微妙なニュアンスが生まれてくるのです。さらに本や先生から学んでいけば、言語表現はより豊かに、より高度になっていくでしょう。子供も初めは簡単な単語から覚え、まちがいを繰り返しながらやがて長いセンテンスで意思を伝えることができるようになるのです。

🎮 ブロック遊びと道路工事

道路工事のために〔没有路 méiyǒu lù〕だった道が、工事が終わって通れるようになった日のこと、京京は補修の跡を見つけて言いました。

看！ 装进去了。Kàn! Zhuāngjìnqu le.

(見て、はまってる)

彼女は開いていた穴が「埋まっている」と表現したかったのです。正しくは「[补好了。Bǔhǎo le.] (補修できている)」と言わなければなりません。この「[装 zhuāng]」はおもちゃのブロックや積み木で遊ぶときよく使う動詞で、ブロックがカチッとハマったり、積み木がうまく組み合わさったとき、「[进去] (入っていく)」という補助の動詞をつけて「[装进去] (ハマった)」と言っているのです。

彼女が積み木遊びで使っている動詞は「[装]」、「[拼 pīn] (組み合わせる)」、「[搭 dā] (積み重ねる)」くらいしかなく、「[补] (補充する、補修する)」、「[填 tián] (埋める)」はまだむずかしかったのです。

彼女は子供らしい発想で「[装]」という動詞を動員し、表現しようとしてきたのです。もちろん、ティーンエイジャーになったいまでは道路工事の跡を見て「[装进去]」と言ったりすることはありません。これが子供の言語学習の過程なのです。

子供がどんな状況で言葉を覚え、それを発展させていくか、つまり「子供が言葉を理解し話せるようになる過程」を知ることが、きっと中国語学習のステップアップに役立つと、私は信じています。本書は、幼いころ、日本で生活していた私の娘を中心に、彼女の中国語の先生となってくれたおいの大虎や、私自身の体験もまじえてお話を進めていきます。

ご存じのように中国は国土が広く、人口も多く、言葉は地方や生活レベルによってかなり違いがあります。北京から高速列車でたった30分の距離にある天津でさえ、日常話している言葉が違います。京京が話している中国語は私たち父母や、私の実家である李家の教えのもとに培われたものです。また「[拼音 pīnyīn]」表記については、中国社会科学院言語研究所の正書法に準じ、なるべく実際に即したかたちでつけています。これらのことを先におことわりしてから、お話を始めましょう。

第 1 章

発音・あいさつ言葉・名詞



3歳の京ちゃん。東京で

第1章

発音・あいさつ言葉・名詞

🍷 文字を知らなくても会話はできる

私たち中国人が日本で生活していて助かるのは、同じ漢字が使われているということです。駅名や地名などの固有名詞は、日本語がまったくわからなくても新橋は Xīnqiáo と読み、池袋は Chídài と読んで、迷うことなく行くことができます。日本語で文を書くときも漢字が共通しているので、日本語の表現がわからないときは漢字の熟語を使い、なんとか意味が通じる文をつくることができます。これは日本人が中国へ行ったときも同じではないかと思います。字の形が中国の簡体字と日本の字とで違うということはありますが、すぐに認識できるようになります。ところが、「共通の漢字」という便利さが、逆に言葉をマスターするうえで障害になることもあります。たとえば、

不管是中国人还是日本人感情上是没有区别的。

Bùguǎn shì Zhōngguó rén hái shì Rìběn rén gǎnqíngshàng shì méiyǒu qūbié de.

(中国人も日本人も人の気持ちに変わりはない)

と言おうとしたとき、中国人は日本語で「中国人と日本人、感情に区別がありません」と言い、日本人は中国語で「**日本人和中国人，感情上没有变化**」と言ってしまうのです。中国人は「違い」という中国語の「**区别 qūbié**」をそのまま日本語読みにして使い、日本人は「**変わりはない**」の気持ちで「**变化 biànhuà**」という言葉を選んでしまいます。

これでおたがいに通じないのならまちがいに気づきますが、な

(京京, 見てごらん。これは時計, 時計よ, お時計さん)

テレビの前に連れていき,

这是电视, 电视。

Zhè shì diànshì, diànshì.

(これはテレビ, テレビ)

お茶碗を見せて,

京京, 碗, 这是碗。

Jīngjīng, wǎn, zhè shì wǎn.

(京京, お茶碗, お茶碗よ)

彼女は物を見つめながら, 私の繰り返す声をじっと聞いていました。時計やテレビやお茶碗がどういうものか知らなくても, 目に映った形と聞こえてくる音を認識していったのです。時計が見えると biǎo という声が聞こえる。テレビを見ると diànshì という音, お茶碗は wǎn という音……。

顔の部分の名称も同じようにして遊びながら教えていきました。彼女の鼻や耳を指でさわわり, [这是鼻子, 鼻子。Zhè shì bízi, bízi.] (これはお鼻, お鼻), [这是耳朵, 耳朵。Zhè shì ěrduo, ěrduo.] (これはお耳, お耳), [嘴, 嘴。Zuǐ, zuǐ.] (お口, お口), [眼睛, 眼睛。Yǎnjīng, yǎnjīng.] (おめめ, おめめよ)。こんなふうにして教えていったのです。

これをくりかえすうち3か月をすぎたころから, 京京ははっきりと物と音を理解するようになりました。

京京, 电视在哪儿? 电视?

Jīngjīng, diànshì zài nǎr? Diànshì?

(京京, テレビはどこ? テレビは?)

と聞くとテレビのほうを向き,

表, 表呢? Biǎo, biǎo ne?

(時計, 時計は?)

と聞くとちゃんと時計を見つめ、満1歳になったころから「鼻子呢？ 鼻子。Bízi ne? Bízi.」[「嘴呢？ Zuǐ ne?」] と言うと小さな手で鼻や口をさわって示すようになりました。

🍷 声調が正しければ通じる

.....

日本人が中国語を勉強するとき、最初に出会う難関は発音とイントネーション（声調）です。人によっては何年勉強していてもこの二つができなくて、会話が通じないという場合もあります。ここでちょっとコツをお教えしましょう。

中国語の[普通话 pǔtōnghuà]（共通語）には四つの声調があります。同じ発音でも声調が違くとまったく意味が変わってしまいます。たとえば、

包 bāo (含む), 薄 báo (薄い), 饱 bǎo (満腹である), 报 bào (新聞)

というように。声調は第1声から第4声まで - ˊ ˇ ˋ の四つの記号で表し、それを漢字の発音を表す[拼音 pīnyīn]（発音表記のアルファベット）のうち最も大きく発音される母音の上につけて示します。一般のテキストには - ˊ ˇ ˋ の順で並べられ、それぞれ第1声、第2声、第3声、第4声と呼びます。けれど、これを別の側面から見ると第1声と第3声、第2声と第4声が対照をなすイントネーションになっていることがわかります。つまり、

ā と ǎ, á と à

ā はふだん日本語で話している声の高さより高いところで「アー」と平らに伸ばし、ǎ はふだんの高さより低いところで「アーア」となるのです。á はふだんの高さより少し低いところから始めて一気に上へあげ、à はその逆で、ふだんの高さより高いところから一気に落とすとやりやすくなります。

中国語の発音と声調のうち、通じるためにいちばん重要なポイントは第一に声調です。[电视] [表] [鼻子] を覚えた京京に、diánshí とか、biāo とか bizi などと違う声調で話しかけても彼女にはわからなかったはずです。けれど diānsi とか piǎo, pízi のように子音だけを変えて正しい声調で言えばわかったはずです。

こういうことがありました。

京京が1歳5か月のころ、保育園に通いはじめて半年ほどたっていました。そろそろおしめを取って、おしっこやうんちをおまるであることを覚える時期になっていました。家ではおまるを使わせるとき「坐盆儿盆儿 zuò pénpénr」と言って教えていたのですが、保育園の先生が「ここにお座りなさい」と言っても、なぜかいやがって座ろうとしませんでした。言葉が通じないためかと思った先生は、中国語で何というのかと尋ねてこられました。そこで「坐坐。Zuòzuo.」(お座り)という言葉をお教えしました。先生はこの発音を「ゾーゾー」と覚え、実行したのです。発音は少し違っていました。イントネーションは正しかったので、その結果、京京はすなおに座り排泄するようになりました。これを見ても声調がどれほど大事かおわかりになると思います。

👉 赤ちゃんのお遊び

日本の子供もお母さんといっしょにいろいろな遊びをしながら言葉を覚えていきますが、中国にも同じような赤ちゃんのお遊びがあります。このような遊びで使う言葉はたいてい決まった漢字がありません。つまり発音が重要だということです。赤ちゃんは知らず知らずのうちに音と動きを覚えていくのです。京京が赤ちゃんのころどんな遊びをしていたか、いくつかご紹介しましょう。

いないいないばー [mēr] ——5 か月を過ぎて [爬 pá] (ハイハイ) ができるようになったころ、赤ちゃんを相手にいろいろな遊びをします。私たちがよくやってあげたのが mēr という遊びです。これは日本の「いないいないばー」と同じように、赤ちゃんの前でお母さんが自分の顔を手でおおい、mēr とってパッと顔を出すのです。カーテンに隠れてから顔を出したり、お父さんにだっこしてもらって私が背を向け、パッと振り向いたりもします。mēr と言いながら顔を見せるたび赤ちゃんは大よろこびです。

ところで、この mēr を漢字でどう書いたらいいのか、よくわかりません。おそらく mēr は mēngr で、布などで物を「おおう」という意味の [蒙 méng] という動詞がなまったものだと思います。

なでなでするたび大きくなあれ [húlà húlà zhǎng zhǎng] ——おしめを交換するときや、お風呂上がりにしてやると赤ちゃんがよろこぶのがこの遊びです。これはあおむけになっている赤ちゃんの体を、húlà húlà と言いながら肩から腕、腰、足へとマッサージするようになでていき、最後に足首を持って zhǎng zhǎng と言いながら上下に振り、これを繰り返すのです。赤ちゃんは気持ちがよくて上機嫌になります。

ところで、これも mēr とともに母から教わったもので、漢字がわかりません。húlà húlà のほうは [胡嚕 húlu] (なでる・さする) という北方方言があるので、それと関係があるかもしれません。zhǎng zhǎng のほうはきっと「成長する」という意味の [长 zhǎng] でしょう。

バタバタ、バタバタ飛んだ [dǒudǒu, dǒudǒu fēi] ——赤ちゃんをひざに乗せ、両手の人差し指をとって指先をツンツンと突き合

わせ dǒudǒu, dǒudǒu と言い、fēi と、e のところを長く伸ばして言いながら指を左右に離します。[dǒu] は「震える」「振るう」「払う」などの意味の「抖」で、fēi は「飛」（飛ぶ）。ちょうど鳥が羽をバタバタさせ、パッと飛んでいくイメージを思い起こさせます。子供がこの動作を覚えたら、親子で向き合っていっしょに遊びます。

にぎにぎ [náonio] —— 赤ちゃんの前で手を握ったり開いたりしてみせ、[náonio, náonio] と言います。そのうち子供は [náonio, náonio] と言うと片手を出してにぎにぎしてくれるようになります。

おめめパッチリ [眼儿一个 yǎnr yí ge] —— 目をぎゅっとつぶってからパッと開ける動作です。最初にお母さんがやってみせると、赤ちゃんがまねをするようになります。ハイハイではいずりまわっていたころ、[京京, 眼儿一个 Jīngjīng, yǎnr yí ge.] と言うと目をパッチリしてくれました。

おててパチパチ [欢迎, 欢迎 huānyíng, huānyíng] —— 赤ちゃんが上機嫌のときや、お客さんが来たときなど、こう言いながら手をとって拍手をさせます。[欢迎] は「よこんで受け入れる」という意味で、来客に「よくいらっしゃいました」という気持ちで言うほかに、[欢迎你唱个歌。Huānyíng nǐ chàng ge gē.] (ぜひあなたの歌を聞かせてくださいよ) というようにも使います。

ですから [欢迎] で手をパチパチするのは、たんなる [拍拍手 pāipai shǒu] (手をたたく) ではない、うれしいという気持ちを表す動作なのです。

♡ 遊び歌

中国では子供が1歳ごろになると、親は遊び歌やわらべ歌を歌って聞かせます。それは親から子へと代々伝えられていくもの。私も東京が満1歳くらいになったころ、[童谣 tóngyáo] (わらべ歌) を歌いながら遊ぶ遊びを教えました。この二つをご紹介します。

大きなノコギリ [拉大锯 lā dàjù] ——子供と向き合って座り、両手をつないで押したり引いたり、ノコギリを引く動作をしながら歌います。

拉大锯，扯大锯，Lā dàjù, chě dàjù,

姥姥门儿上唱大戏。lǎolao ménrshang chàng dàxì.

什么戏？ Shénme xì?

« 红灯记 » Hóngdēngjì

妈妈京京一起去。Māma Jīngjīng yìqǐ qù.

(ノコギリ引こう，ゴシゴシ引こう)

おばあちゃんのお家で大芝居

出し物なあに

『红灯記』

ママと京京でいっしょに行こう)

『红灯記』というのは、文化大革命のころ現代京劇の[样板戏 yàngbǎnxì] (模範劇) とされたもので、当時はこのほかに『白毛女』をはじめ8本の模範劇があり、そればかりが上演されていました。この歌は私の[姥姥] (母方の祖母) から教わったもので、[姥姥] が子供の時代は『红灯記』とは言っておらず、

拉大锯，扯大锯，Lā dàjù, chě dàjù,

姥姥门儿上唱大戏，lǎolao ménrshang chàng dàxì,

接姑娘，请女婿。jiē gūniang, qǐng nǚxù.

小外孙也要去。Xiǎowàisūn yě yào qù.

(ノコギリ引こう，ゴシゴシ引こう

おばあちゃんのお家で大芝居

お嫁さん迎えて，婿をとる

外孫までもが行きたがる)

と言っていました。でも，後半の2句が「姥姥」の時代の内容なので，私が韻に合わせて『紅灯記』にしたのです。この歌は2拍子で調子を取りながら歌います。各句の最後がそれぞれ「锯 jù」[戏 xì] [记 jì] [去 qù] とみな第4声でそろっています。最後の「去 qù」で大きな声を出して手をグッと引っ張ると，子供はキャーキャー言ってよろこびます。

あんよをからめて [盘脚面 pán jiǎomiàn] ——この遊びは2歳くらいからできるようになります。ふつうは子供どうし数人で集まって，大きなベッドや「炕 kàng」(オンドル)の上にもるくなって座り，足を中心に向かって伸ばします。2人しかいなければ左右の足をたがい違いに組んで伸ばします。東京は日本にいたので，この遊びを私と2人でやりました。

盘盘盘脚面，Pán pán pán jiǎomiàn,

脚面整，jiǎomiàn zhěng,

烙花饼，lào huābǐng,

花饼花，huābǐng huā,

一道茄子，yí dào qiézi,

两道瓜。liǎng dào guā.

给谁吃？ Gěi shéi chī?

给你吃。 Gěi nǐ chī.

(あんよをからめて，からめましょう)

あんよをそろえて
お餅を焼いて
お餅ふっくら
最初はおナス
次はウリ
だれが食べるの
あなたが食べる)

この歌は2拍子で歌います。1拍子ごとに調子を取りながら、足を1本ずつポンポンと上げては下ろします。右回りで進むならば右足を上げてから左足を上げ、次は隣の子が右足、左足の順で上げていき、最後の「吃 chī」で上げた足を引っ込めるのです。何度も繰り返し、最後に残った片足の持ち主が罰ゲームとして歌を歌うとか、何かの芸をみんなに見せなくてはなりません。

このような歌はほかにもたくさんあり、地方によってもいろいろです。北京に伝わる歌を一つ紹介しましょう。

小小子，坐门墩儿，Xiǎoxiǎozi, zuò mén dūnr,
哭着喊着要媳妇，kūzhe hǎnzhe yào xífù,
要媳妇干吗呀？ yào xífù gàn má ya?
点灯，说话，拿尿盆儿。Diǎn dēng, shuōhuà, ná niàopénr.

(ほくちゃん、敷居にえんちゃして
びいびい泣いてお嫁さんがほしい
お嫁さんもらってどうするの？

灯りをつけておしゃべりして、それからおまるを持ってくる)

この歌は北京に生まれ育った人ならばみな知っています。

ふつう中国語でメロディーのある歌を歌うと、声調がなくなってしまうが、「童谣」はだれかが作曲したものではなく、声調を残したままです。ですから歌でもあり、詩でもあるわけです。子供はこういう楽しい遊び歌が大好きです。中国の子供にとって

言葉を豊かにしていくとき歌は欠かせません。ちなみにこの歌を音符に起こしてもらいました。音符に合わせて、拍子を取りながら歌ってみてはいかがでしょう。日本のみなさんは中国語を習い始めのころ、よく首をタテヨコに振りながら声調を覚えようとしています。ときには首の振り方は合っているのに口で言っているのは違っていたりして、なかなか感じがつかめないようです。このように音楽として覚えるのも一つの方法ではありませんか。



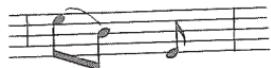
ママにだっこされて、3歳のころ



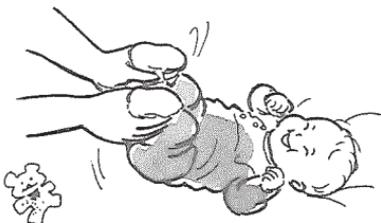
表， 表 在 哪 儿 ？



电 视



坐 坐



hu la hu la zhang zhang



盘 盘 盘 脚 面 脚 面 整
烙 花 饼 花 饼 花 一 道 茄 子
两 道 瓜 给 谁 吃 给 你 吃



★「ハイ」と「欸」, 「うん」と「嗯」

東京は日本の保育園でいろいろな日本の遊びを覚えました。1歳前後に覚えたのは「いいお返事」と「バンザイ」という動作で、私にとっても印象に残りました。「バンザイ」は両手をパッと上げる動作で、お遊びだけでなく服を脱がせるときにも言うのでとてもおもしろいと思いました。

中国語にも「万岁 wànsuì」(万歳)という言葉がありますが、これは国家の最高位者、つまり皇帝に対してのみ使う言葉で、それ以外の人には決して使ってはならない言葉でした。文化大革命のころ、毛沢東主席に向かって「万岁」が叫ばれましたが、以後は使われていません。日本語の「バンザイ」は仕事が成功したときとか、だれかをお祝いするときとか、いろいろな場面で使われ、同じ言葉なのに中国語の「万岁」とはずいぶん違うものだなと感じたしだいです。

「いいお返事」を覚えたのは1歳の誕生日を迎えたころでした。「京ちゃん」と呼ぶと、パッと小さな手を上げるのがとてもかわいらしかったです。中国語には日本語の「ハイ」のようにオールマイティで使える言葉がありません。名前を呼ばれてきちんと返事するのは小学校に上がったからで、先生から点呼のときに名前を呼ばれると、「来た」という意味で右手を上げてこう答えます。

到 dào

もっとも手を上げるのは小学校までで、中学になれば手は上げず、返事だけになります。日本の小学校では授業中も「ハーイ、ハーイ」と言っただけで手を上げますが、中国の小学校では、右ひじをきちんと机の上につけ、黙って手を上げるのが正式な方法です。なかには先生にさしてもらいたくて、「見て、見て」というように、身を乗り出して手を高く上げる子供もいますが、そういう子は注意されてしまいます。教室では静粛にしなければいけないというのが、中国での考えなのです。

「ハイ」という返事は、日本の場合、おとなでも子供でも使い、呼ばれたときには相手に注意を向けたということ、話を聞いているときには、「ちゃんと聞いています」という意思を表すものですが、中国語ではそれぞれ言い方が違います。名前を呼ばれたときは、ふつつ、こう答えます。

欸 ei

【欸】は、「ねえ」「ちょっと」と人に呼びかけるときにも使います。人の話を聞いているときには、こう言って相づちを打ちます。

嗯 ng

これはすぐ近くで呼ばれたときにも使います。発音を日本語で書くと「うん」になりますが、日本語は「ハイ」がいいお返事であるのとは逆に、「うん」は悪いお返事になってしまい、目上の人に呼ばれて「うん」などは、失礼になるので言えません。けれど、中国語の【嗯】は決してそうではありません。相手の話に耳を傾けているという姿勢を示す感嘆詞なのです。たとえば電話で打ち合わせなどをするときなど、

嗯，嗯，明白了。Ng, ng, míngbai le.

(ふん、ふん、わかりました)

嗯，嗯，好。知道了。Ng, ng, hǎo. Zhīdao le.

(ふん、ふん、はい。了解しました)

と、こんなふうに話します。日本人の場合、日本語で「ハイ」と答える気持ちで、【是，是 shì, shì】と言う人がいますが、これは軍隊などで使う固い言い方になってしまいます。中国語はもっと気持ちを楽に、くだけた感じにしてもいいのです。もしどうしても「ハイ」に相当する言葉を探すとしたら、【好 hǎo】がいいかもしれません。ただ、日本語のようになんでも「ハイ、ハイ」と言ってしまうと、この人はなんでもいうことを聞いてくれると思われてしまうでしょう。なぜなら中国語でイエスマンのことを【好好先生 hǎohǎo xiānsheng】というからです。



2歳の京ちゃん

🍷 初めての言葉は何語？

赤ちゃんは5か月ごろになるとだんだん表情も豊かになり、言葉は言えないけれども動作や声で意思表示をするようになります。このころの京京は喃語（意味を持たない声）でアーアー、ウーウー、ヤーヤといったおしゃべりをさかんにしていました。保育園のお友達とひなたぼっこをしているとき、まるで会話をしているようにお友達に向かって何か言っていたり、ぬいぐるみを持って「ウンウン、アーアー」と意味をなさないおしゃべりをしたりしながら遊んでいました。きっとお話がしたいという気持ちがいっぱいだったのでしょう。

7か月で京京は保育園に入りました。そのころの私の日記や保育園の保育さんが書いてくれた連絡帳を見ると、京京の心の発達がよくわかります。

7月2日 (11か月)	保育園の大きな七夕飾りを見て「わーっ」と声を上げていました。きっと「きれいだね」という気持ちだったのでしょう。(連絡帳)
9月12日 (1歳1か月)	揺れる木馬が気に入って、ゆらゆら揺らしてあげると大よろこびし、「もっともっと」と言っているようでした。(連絡帳)
10月20日 (1歳2か月)	京京想要东西的时候，就用手指着说：“这个”“那个”（京京は何か物がほしいとき、指さして「これ」「あれ」と言う）(日記)

日記には [说 shuō] (言う) と書きましたが、実際は言っているようなようすを示したということです。

1歳3か月のころは、お父さんのデスクにちょこんと座り、電話の受話器を左手で持って頭の横に当てて、しきりに「アーウー」とお話のまねをしていました。私たちが電話で話をしているよう

すを観察していたのです。京京が初めて意味のある言葉を発したのは8か月を迎えたころでした。電車の中で隣に座った年配の女性が「かわいいわね」と言いながら娘をあやしてくれたのですが、その方が降りるとき、京京に向かって「バイバイ」と言い手を振りました。すると思いかげず、京京も手を振って「バイバイ」と言ったのです。これは私たちにとってうれしい出来事でした。

それまでは、保育園の先生など、京京のまわりのおとなたちが「バイバイ」と彼女に言い、私が手を取りバイバイの動作をさせていましたが、自分で口にしたのは初めてだったのです。それからは、お父さんが出かけるときも、京京は自分から手を振って「バイバイ」を言うようになりました。……でもバイバイは中国語ではありません。

バイバイの次は生後9か月のときに発した *dada* でした。ちょうどお父さんがあやしていたときのことです。

京京叫爸爸了！ Jīngjīng jiào bàba le!

(京京がパパと言ったよ)

夫は大よろこびでしたが、ほんとうに京京が「爸爸」(お父さん)のつもりで言ったのかどうか定かではありません。

子供は生後7、8か月のころから言葉を話したい意識が芽生え、*mm, mm, ma, mam*, とか *ba, bab, bab, bb*, のような音を出しました。その声を聞くと「さあ、言葉を話したぞ」と思うのが親心というもの。私も「妈妈」と呼んでももらいたくて *māma* の発音を一生懸命教えました。そのとき歌ってやったのが、日本人の中国語学習者にも有名な「绕口令 *ràokǒulìng*」(早口言葉)の一つです。

妈妈骑马, 马慢, 妈妈骂马。 Māma qí mǎ, mǎ màn, māma mà mǎ.

(ママがおウマさんにのったらおウマさんがおそくて、ママはおウマさんをしかった)

子供もおウマさんのようによつんばいでハイハイする時期、おもしろがって聞くうち、[妈妈]が言えるようになるのです。京京がはっきり mama と言ったのは1歳1か月のときでした。でも京京の mama は、私には日本語のママに聞こえました。やっぱり日本にいるから日本語を先に覚えてしまうのかと思ったのですが、なんと保育園の先生からは、「京ちゃんの言うママは中国語の発音ですね」と言われてしまいました。保育園の先生はこんなことも教えてくれました。お友達が彼女のエプロンをとったら、京京は怒ってその子を指さし、中国語で文句を言ったということです。まだ、「バイバイ」と mama しか言えない（もしかしたら [爸爸] も）京京に、そんな長い言葉の言えるはずがありません。

保母さんはまた「京ちゃんは中国語で歌を歌っています」とも言っていました。いいえ、彼女はまだ歌詞のついた歌など歌えません。これらが言葉らしく聞こえたというのなら、彼女はいったい何語を話していたのでしょうか。

そのように京京は自分で勝手につくった言葉を一人でしゃべっていることがありました。外では日本語、家では中国語、ディズニー・アニメの英語版ビデオもよく見ていました。子供にとって自分の気持ちを表現できることはとても楽しいことなのです。京京はきっと、話をしたい気持ちが泉のようにわいてきて、中国語でも日本語でもそれをじゅうぶんに使うことができないので、思わず自分だけの言葉を創作してしまったのでしょうか。

語学をマスターするための第一歩は耳をすまして聞くこと、次は話をしたい、気持ちを伝えたいという欲求を持つことかもしれません。

👁 みんなが覚えた「おしっこ」

京京は1歳11か月、つまりもうすぐ満2歳になるころに北京に帰り、半年間を私の実家である李家で過ごしました。この半年が彼女の中国語の基礎を築くうえで重要であったことは言うまでもありません。彼女の中国語の〔听力 tīnglǐ〕（聞いて理解する力）は相応にできていましたが、話せる言葉は「だめ」「やだ」「かわいい」「食べる」「いる」「…ない」「おしっこ」「うんち」などの日本語ばかりでした。

しかし子供の言語能力はすばらしいもので、1か月もすると周囲の人から話しかけられる言葉もほとんどわかるようになり、話もどんどん出てくるようになりました。ただ、最初に身につけた日本語はどうしても中国語に変えることはできませんでした。なかでも困ったのが「おしっこ」と「うんち」です。小さい子供にとって排泄をおとなに知らせるこの単語はとても重要なものです。

中国語では〔撒尿 sā niào〕（小便をする）、〔拉屎 lā shǐ〕（大便をする）といい、子供には〔尿尿 niàoniao〕（おしっこ）とか〔哗哗 huāhua〕（おしっこをする音の表現。シーシー）、〔屁屁 bǐbǐ〕（うんち）などと言わせます。家族はみんなで何度も〔尿尿 niàoniao〕と〔屁屁 bǐbǐ〕を教えたのですが、京京は覚えませんでした。私がそばにいれば問題はないのですが、出かけるときは父母や妹などがめんどろをみってくれるので、そのとき困ってしまうのです。

毎日仕事に出かける私に代わり、足の悪い母に子供の世話をさせるのは酷だと思い、近所の〔幼儿园 yòu'eryuán〕（保育園）に入れようと面接試験を受けたのですが、〔尿尿〕と〔屁屁〕が言えないということで断られてしまいました。結局、家族のほうが「おしっこ」と「うんち」という日本語を覚えることになったの

です。それはこんな出来事がきっかけでした。

あるとき、母が京京を〔小推车 xiǎotuīchē〕（うば車。籐製で車輪が四つついているもの）に乗せて公園に遊びに連れていってくれました。その帰り道、買物から帰る近所の人と会ったので、京京をうば車ごとそのおばさんに預けて先に帰ってもらい、自分は買物に行ってしまいました。近所づきあいをよくする中国では、こういうことは当たり前で、おばさんもよろこんで引き受けてくれました。おばさんにうば車を押してもらって帰る道、京京は急におしっこがしたくなってしまいました。彼女は日本語の全然わからない〔奶奶 nǎinai〕（子供が年配の女性に対して使う呼称）に向かって、「おしっこ！」

と叫びました。でも〔奶奶〕には通じません。

「おしっこ！ おしっこ！」

京京は立ち上がって叫びましたが、おばさんは「何を言っているのだろう」と京京の顔をのぞきこみながらも、そのまま車を押して歩いています。

とうとう京京はがまんできずにおもらししてしまい、ズボンもうば車もぬらしてしまいました。家に着き、私の顔を見ても京京はポロポロ涙をこぼしながら「おしっこ、おしっこ」と叫んでいました。

「私、おばあちゃんにおしっこしたいって言ったの。でもおばあちゃんはわからなくて、だからおもらししちゃったの。どうして私の言うことがわからなかったの？」

京京はきっとそう私に訴えていたにちがいません。

それから「おしっこ」と「うんち」という二つの日本語は、私の家族ばかりでなく、ご近所のみなさんも覚えるようになりました。

👀 おしめより股割れズボン——开裆褲

中国へ行ったことのある方は、小さな子供が股の割れたズボンをはいているのを見たことがあると思います。あれは「开裆褲 kāidāngkù」という子供用のズボンで、そのまましゃがめばお尻が出て、ズボンを脱ぐ手間がなく排泄できるようになっているのです。

東京は帰国したばかりのころはまだおしめをしていましたが、母は「いつまでもおしめをしているのはよくない」と言って、すぐに「开裆褲」をはかせてしまいました。中国人の考え方で、おむつをつけていると悪い「気」が体に入るからよくないというのです。なんの科学的根拠はないのですが、長いあいだの習慣で、私も、もう歩けるようになった子供がおしめをしているのを見ると「よろしくない」と思ってしまいます。

もう一つ日本にはない習慣に、「剃胎毛 tì tāimáo」があります。これは赤ちゃんが生まれたあと「胎毛 tāimáo」（お母さんのおなかの中から持ってきた髪）をすっかりそって丸坊主にし、新しい髪を生えさせるという習慣です。

子供は、男女にかかわらず、満1歳になる前に髪をそります。地方によっては「剃满月头 tì mǎnyuètóu」といって、生後1か月でそるところもあります。これをするので赤ちゃんの時代が終わり、子供になったという感じがします。中国へ行けば、丸坊主の女の子や、一部の毛を残してすっかりそっている男の子をよく見かけるはずで、男の子が一部の髪を残すのは、男の子が家族の血統を継ぐ正当な後継者で、残した髪はその「根」（ルーツ）の象徴だと言われ、また、男の子は女の子にくらべて体が弱く、昔は成人する前に亡くなるが多かったため、髪を伸ばして女の子のようにして健康を願ったという説もあります。

日本ではこういうことをしませんが、私などは「胎毛」をいつまでもそのままにしておくのは、どうも気持ちが悪く感じてしまいます。



👶 子供のあいさつと家族の呼び名

さて、北京に帰ったばかりのころ、京京の中国語の訓練のスタートとして、まずあいさつを教えました。日本であいさつといえば、おとも子供も「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」と言いますが、中国では違います。

子供は相手に対し、その人にふさわしい呼称をもって呼びかけます。つまり子供にとって自分のおじいさんやおばあさんにあたる年の人か、おじさん、おばさん、お兄さん、お姉さんにあたる年の人かを教えて、そのように呼びかけさせるのです。それによって親しみのこもったあいさつになります。

たとえば、私が京京を連れて学生時代の女性の友人に会ったときにはこうします。

京京，叫阿姨。Jīngjīng, jiào āyí. (京京、おばさんとお呼びなさい)
すると京京は相手の顔を見て言います。

阿姨！Āyí! (おばさん)

子供にこう言われれば友人はとてもよろこんでくれます。もし、私の母くらいの年の女性に会ったら、

妈妈：京京，叫奶奶。Jīngjīng, jiào nǎinai.

京京：奶奶！Nǎinai!

こう言われて目を細めない人はいません。[阿姨][奶奶]といった言葉は、家族に対して呼びかける言葉と同じで、それを他人にあいさつとして使うことにより、自分にとって[辈 bèi] (家族の長幼の順) のどの地位にあたるのかを示し、年長に対する敬いの気持ちを表現するのです。

もし、子供がきちんとあいさつをしないで「うーん」とか「あーん」とかいかってもじもじしていると、相手に[不礼貌 bù lǐmào] (失礼) になり、

这个孩子没有家教。Zhège hái zǐ méi yǒu jiā jiào.

(この子はしつけされていない)

と思われてしまいます。

でも、日本で独身女性に向かって東京に「おばさん」と呼ばせたら、気を悪くさせてしまいます。日本人はいつでも若く呼ばれることをよろこぶので、若い女性にはとりあえず「お姉さん」と呼ばせるしかありません。

同じように、もし中国で私と同年輩の友人に[姐姐 jiějie] (お姉さん) とか[哥哥 gēge] (お兄さん) と呼ばせたら、[不礼貌] を通りこして[让他(她)生气 ràng tā shēngqì] (相手を怒らせる) ことになるでしょう。つまり、2歳の東京が私の友人を[姐姐] と呼んだとたんに、その人は東京の姉になり、私の子供の格になってしまうからです。

那，我不成了你的孩子了吗？ Nà, wǒ bù chéng le nǐ de hái zǐ le ma?

(じゃ、私はあなたの子供っていうわけ?)

と言われることまちがいなし。それは、相手のメンツを最も傷つけることだから。そんなことになったら、いままでの友情もぶちこわしです。

母には彼女が[叔叔 shūshu] (おじさん) と呼んでいる親戚がいます。その人は母の祖父の弟の子で、母の親の世代にあたる人ですが、年は母と同じくらいです。その人のことを父も母にならって[叔叔] と呼ぶので、小さいころ私は、なぜ父が自分より年下の人をおじさんと呼ぶのか不思議に思っていました。こういう呼びかけは、実際の年齢ではなく、世代に基づいているのです。こんなふうには、中国人は[辈] (世代) にとてもこだわりを持っています。

東京が人を呼ぶ場合、相手が年上の子供ならば[哥哥 gēge] (お兄さん) か[姐姐 jiějie] (お姉さん)、年下ならば[弟弟 dìdì] (弟)

か [妹妹 mèimei] (妹), 親の世代ならば [叔叔 shūshu] (おじさん) か [阿姨 āyí] (おばさん), 祖父母の世代ならば [爷爷 yéye] (おじいさん) か [奶奶 nǎinai] (おばあさん) となります。

子供から [阿姨] [奶奶] と言われても, どうぞ気を悪くしないでください。これらの呼称には決して「老いて醜い」という意味は入っていません。[輩] の上位の名称で呼ばれることは尊敬されていることを表し, また自分より若い人を [輩] の下位の名称で呼ぶことは親しみといつくしみを表すことなのです。

🌟 丁星おじさんが名前で呼ばれるわけ

北京には京京の家が二つあります。一つは私の夫の実家, 汪家, もう一つは私の実家の李家です。京京は汪家にとっては内孫ですが, 彼女が小さいころは彼が日本で仕事をしていて不在だったため, 私の実家が彼女のおもな住まいになりました。

家は, 私の両親がともに中国鉄道部内の職場に勤務していたので, 鉄道部所有の団地内にあります。敷地は周囲を壁でかこまれ, 中は日本の団地のよういくつもの棟が建っています。このような生活を [大院生活 dàyuàn shēnghuó] といい, 大家族が同居する伝統的な [四合院 sìhéyuàn] の生活とは違ってしています。

[四合院] の生活は, [平房 píngfáng] と呼ばれる夫婦単位の1家族ごとに建物や部屋を別にし, 全体で建物群を形成し, 敷地内には血縁者ばかりが居住します。[大院生活] は, 日本の社宅とか団地の生活に似ていますが, 家族のつながりの強い中国では, 別のところに住んでいる家族がしじゅう出入りします。うちも私の両親のほか, 姉妹やその家族たちが出入りし, 泊まっていたりします。

京京が滞在していたころには, ちょうど私の [大姐 dàjiě] (京

京にとっては〔大姨 dàiyí〕の子の〔大虎 Dàhǔ〕が夏休みで預けられていたので、京京のよき中国語の師になってくれました。大虎は京京の〔表哥 biǎogē〕（姓の異なるいとこ）にあたり、彼のことは〔哥哥〕と呼ばなくてはなりません。



大虎(左)と京ちゃん(2歳)

京京，叫我哥哥。不叫哥哥，我就不跟你玩儿。

Jīngjīng, jiào wǒ gēge. Bú jiào gēge, wǒ jiù bù gēn nǐ wánr.

（京京，ほくのことがお兄ちゃんと呼びな。お兄ちゃんと呼ばないと遊んであげないよ）

你要吃这块糖，就得叫哥哥，不叫我哥哥就不给你。

Nǐ yào chī zhè kuài táng, jiù děi jiào gēge, bú jiào wǒ gēge jiù bù gěi nǐ.

（このアメが食べたいんだったら、お兄ちゃんって言わなきゃだめだよ。お兄ちゃんって呼ぶまであげないからね）

そうやって彼は自分をどう呼んだらいいのか教えたのです。京京が会って覚えた人々は〔哥哥〕のほかにこれらの家族がいます。

〔爷爷〕〔奶奶〕：父方の祖父母。

〔老爷 lǎoye〕〔姥姥 lǎolao〕：母方の祖父母。

〔大姨 dàiyí〕〔二姨 èryí〕〔小姨 xiǎoyí〕：すべておば（私のいちばん上の姉と次の姉，そして妹）。〔大姨〕と〔二姨〕はアメリカで生活しているので、当時あまり会っていませんでしたが、〔小姨〕にはよくめんどろをみてもらいました。



〔爷爷〕〔奶奶〕と京ちゃん

〔大大 dàdà〕：私のいちばん上の姉の夫のことで、京京のおじにあたる人。京京にとっては〔大姨〕の夫にあたる人は〔姨夫

yifu] と呼ばなくてはなりません。発音しにくかったのが、大虎が、彼の[堂弟 tángdì] (姓を同じくするいとこ。父の弟の息子) が自分の父のことをそう呼んでいるのにならって、東京に教えたのでした。

[大大] は北京とニューヨークを往復する生活をしていて、このときは北京に来ていました。[大大] は子供好きで、東京のことを娘のようにかわいがってくれました。[大大, 抱抱。Dàda, bàobao.] (おじさん, だっこ) と言えば大きな手でしっかり抱き上げてくれるし、お菓子も買ってくれる。東京は[大大] がいちばん好きでした。

わが家に入入りし、東京と顔を合わせせる家族の中で、ただ一人血縁関係の呼び名で呼ばれず、名前では呼ばれている人がいました。それは[小姨] の夫の[丁星 Dīng Xīng] です。丁星は私たちとはちょっと違ったタイプの人で、冗談を言ってもめったに笑わず、なんとなく浮いた存在でした。彼は[姨夫] とも、[姑爷 gūye] (妻の実家から娘婿に対する呼称) とも呼ばれず、みんなに[丁星, 丁星] と本名で呼ばれていました。愛想のない彼はいつもどこどことなく暗い顔をし、小さな子供の前でもしかめっつらをくずしません。それが子供に異様さを感じさせました。東京は丁星と出会って[怕 pà] (こわい) という言葉を覚えました。丁星がやってくると東京は、

丁星来了！ 丁星来了！ 妈妈，我怕。

Dīng Xīng lái le! Dīng Xīng lái le! Māma, wǒ pà.

(丁星が来た、丁星が来た！ ママ、こわい)

と言ってかけこんできます。こんなに子供に嫌われていて、自分の子供ができたらどうするのだろうと心配していたのですが、彼と私の妹のあいだに[小叮当 Xiǎodīngdāng] が生まれてから、ずいぶん性格が明るくなりました。

张：啊，上班去。À, shàngbān qù. (ええ，そう)

夕方，仕事の帰りのようだったら，

李：下班啦？ Xiàbān la? (仕事の帰り？)

张：下班啦。Xiàbān la. (そうなんだ)

私が休みの日に出かけるとき，張さんと会えば，

张：欸，出去呀？ Éi, chūqu ya? (やあ，李さん，お出かけ？)

李：啊，出去。À, chūqu. (ええ)

となります。ときには「去哪儿呀？ Qù nǎr ya?」(どちらまで?)と聞かれることもあります。そういう場合は「出去一下。Chūqu yíxià。」(ちょっとそこまで)と答えます。これは日本と同じ感覚です。

外出の場面でなく，おたがい普段着で同じ団地内で会ったときなどは，

吃饭了吗？ Chī fàn le ma? (ご飯はすんだの？)

吃了？ Chī le? (食べた？)

などと聞きます。その返事は，食後ならば「吃了。」(すみません)，まだだったら「还没吃呢。Hái méi chī ne。」(これからよ)とか「没呢。Méi ne。」(まだよ)となります。

以前，欧米の人から，中国人はなぜ会っていきなりこんなことを聞くのかと質問されたことがあります。人が食べたろうが，食べてなかろうがなんの関係があるのかというのです。また，彼らの考えからすると，おなかをすかせている友人がいたら用意してやらなくてはならないと思うので，まだのとき「还没吃呢。」と答えたら相手に気を使わせることになるかと心配してしまうのです。でも，これはたんなる「やあ」「こんにちは」といった程度のあいさつですので，まだだと答えたからといって，中国人はべつになんとも思いません。

日常のあいさつはとても簡単なのです。日本では職場でも毎日

いっしょに働いている同僚や上司とのあいだで「お先に」「ご苦労さま」と言い合い、ご飯を食べるときには「いただきます」と言うように決まった言葉が使われていますが、中国語にはそれに対応できる言葉がありません。このような礼儀正しい習慣はとても素晴らしいと思います。けれど、中国人は、堅苦しいあいさつをするよりも親しさを深めることこそ大事だと考えます。

そうはいても、このごろ「吃饭了吗?」「吃了没有?」と言う人が減ってきています。若い人のあいだでは「先生, 您好。Xiānsheng, nín hǎo.」「小姐, 你好。Xiǎojiě, ní hǎo.」などと言うのがおしゃれなあいさつとして使われています。

ある年、北京に帰ったとき、子供のころから見知っている近所の人に「您好!」と言われてしまいました。同じ人が私の母には「吃了没有?」と言っているのです。

嫁出去的姑娘, 泼出去的水。

Jiàchūqu de gūniang, pōchūqu de shuǐ.

(嫁に行った娘はこぼした水と同じ)

近所の人の中に、私はもうよその人として映るのでしょうか。なんだかさみしい気持ちがしてきます。

🍷 京京は名詞を逆にした

耳をすまして親の話しかける言葉を聞いていくうち、赤ちゃんはいろいろな言葉を理解していくようになります。そのなかでも物の名称を覚えることは、動作の言葉よりも早いように思います。京京は3か月で「表」「电视」が何であるか理解し、1歳でそれが言えるようになりました。発音は不安定でしたが、これくらいの名詞を言うことができました。

妈妈 māma 爸爸 bàba 大表 dàbiǎo

电视 diànshì 电话 diànhuà 碗 wǎn

肉肉 ròurou (お肉) 狗狗 gǒugou (ワンちゃん)

猫咪 māomī (猫ちゃん) 花花 huāhua (お花)

娃娃 wáwa (お人形さん) 嘀嘀 dīdī (ブーブー, 車のこと)

牛牛 niúniu (おっばい。これは私と京京とのあいだでしか通じない言葉で、ふつうは [奶 nǎi] と言います)

こうしてみると、ほとんど2音節の言葉ばかりであることに気づかれると思います。2音節言葉が中国語の幼児語になるのです。京京はミルクがほしいときには補乳瓶をさして「牛奶」ではなく [牛牛] と言い、干し肉が食べたいときは [肉肉] と言いました。私のほうから物の名前を尋ねれば、ちゃんと答えられるようにもなりました。外へ散歩に行き、犬を見つけると、こういう会話をしていました。

妈妈：京京，那是什么？

Jīngjīng, nà shì shénme?

(京京、あれはなあに)

京京：狗狗！Gǒugou!

(ワンちゃん)

こうして2歳をすぎると、名詞の数は増えていき、[嘀嘀] は [车 chē] へ、[花花] は [花儿]、[狗狗] は [小狗] へと、おとなと同じ単語になっていきます。ところがそのころ京京には、2音節の単語の前後を逆に覚えてしまうという、不思議な現象がありました。たとえば [沙发 shāfā] という言葉。周囲のおとなはみんな [沙发] としか言っていないのに、京京に限って、

妈妈，我坐发沙上看电视。

Māma, wǒ zuò fāshāshang kàn diànshì.

(ママ、私フアソでテレビ見る)

などと言うのです。[灯泡 dēngpào] もそうでした。あるとき

彼女はいたずらをしてベッドの横のランプシェードの電球をくるくる回してぬき取って背中に隠し、わざと私にこう聞きました。

妈妈，泡灯呢？

Māma, pàodēng ne?

(ママ、球電は？)

私は pàodēng がわからず、彼女が何を質問したのかとまどいました。すると彼女はニヤッと笑い、[你看！ Nǐ kàn!] (ほら!) と言って得意げに電球をさしだしたのです。そのときになって、やっと pàodēng が [灯泡] のこととわかりました。

[袋鼠 dàishǔ] (カンガルー) のことを [鼠袋] と言ったこともありましたが。そのときは笑いだしてしまい、不思議がる東京に逆だよと教えたら、彼女も笑っていました。日本人の子供もカラダ (体) をカダラと言ってしまうという、似たような現象があるようですが、おもしろい現象ですね。

❖ 私のおなかには階段がついている——体の部分の名称

親子のふれあいの中で、体の部分の名称も自然に覚えていきます。[眼儿一个] で [眼睛 yǎnjīng] を覚えたことはお話ししましたが、3歳になるまでに [脸 liǎn] (顔) の部分ではこれらを覚えました。

鼻子 bízi (鼻)

嘴 zuǐ (口)

牙 yá (歯)

耳朵 ěrduo (耳)

头发 tóufa (髪の毛)

眉毛 méimao (眉毛)

手の部分はこれだけです。

手 shǒu (手)

手指 shǒuzhǐ (指)

指甲 zhǐ[zhǐ]jia(爪)

日本では5本の指を「お父さん指」「お母さん指」のように名称をつけて遊びながら覚えていきますが、中国語にはそういう表

現がありません。[大姆指 dàmuzhǐ] (親指), [食指 shízhǐ] (人差し指), [中指 zhōngzhǐ] (中指), [无名指 wúmíngzhǐ] (薬指), [小姆指 xiǎomuzhǐ] (小指) という単語はおとなのもので, 3歳ごろの京京はせいぜい [大姆指] [小姆指] が聞いてわかる程度でした。体の部分で彼女が覚えているのはこれくらいでした。

胳膊 gēbo (腕) 腿 tuǐ (足)

脚 jiǎo (足首から下の足)

肚子 dùzi (おなか) 肚脐儿 dùqír (おへそ)

屁股 pìgu (お尻)

[肚子] はおなかが痛いときに覚えました。[屁股] は, うんちをしたとき [妈妈, 擦屁股。Māma, cā pìgu.] (ママ, お尻ふいて) と言って使いますが, ふだんはあまり口にしません。

日本では「お尻」という単語を子供がよく使いますし, 保育園でも「京ちゃんはお尻ふりふり, ダンスがじょうずね」などと言って保母さんが自然に使っています。でも中国人にとって [屁股] という言葉はあまり口にすべきでない, 避けたい単語です。3歳のとき, 京京はお風呂に入っていて, あることに気づき, 言いました。

妈妈, 京京的肚子里有かいだん。
Māma, Jīngjīng de dùzili yǒu kaidan.

私がなんのことだろうと思っていると,

かいだん中文怎么说?
Kaidan Zhōngwén zěnmě shuō?

と聞くので, [台阶 táijiē] だと答えると,

你看, 京京肚子里有台阶。
Nǐ kàn, Jīngjīng dùzili yǒu táijiē.

(見て, 京京のおなかに階段がある)

と言い, 自分の [肋骨 lègǔ] (肋骨) を指さしました。京京が

胸をそらすとデコボコした「肋骨」が出てきます。彼女には階段に見えたのです。さて、だれがそこを登るのでしょうかね。

🍷 男女の体の違い

子供は3, 4歳になると男女の体の違いに気づくようになります。京京も保育園で服を着替えたりするうち、男の子は「鸡鸡 jiji」(オチンチン)を持っていることを知りました。彼女は女の子の性器を表す「尻 bi」は知りません。中国人と日本人とでは、性に対する観念がずいぶん違うと私は感じています。日本の保育園の保母さんは、性教育の初段階として女の子もお父さんといっしょにお風呂に入り、体の違いについて教えるほうがいいと言うのですが、私たちはどうしても抵抗があってできませんでした。

中国では、お父さんが娘をトイレに連れていくことはあっても、3歳をすぎて物心がつくようになったらお風呂には絶対いっしょに入りません。日本人の女性の友人に聞くと、小学校の低学年までお父さんが入っていたと言います。

中国では、だれに聞いても「小学生の娘がお父さんとお風呂に入るなんてとんでもない」と言うでしょうし、私自身にもはだかの父の姿の記憶はありません。夫が京京をお風呂に入れなくてはならないことがあると、夫はパンツをはいて入ります。



東京にいたころの一家

★ [爬] から [站] そして [能走] は畳のおかげ

三翻，六坐，八爬，十站，一岁走。

sān fān, liù zuò, bā pá, shí zhàn, yí suì zǒu.

これは赤ちゃんの成長を表したことです。

三翻 3か月で寝返り

六坐 6か月でお座り

八爬 8か月でハイハイ

十站 10か月で立ち

一岁走 満1歳であんよする

日本では、「はえば立て、立てば歩めの親心」と言うそうですが、親の子供に対する思いは変わらないもので、私たち夫婦も日に日に成長していく娘の姿を期待をこめて見つめていました。京京はこのことわざの通り、2か月ごろに首がすわり、3か月で寝返りできるようになり、8か月ごろはひざを使ってじょうずにハイハイし、部屋の中を活発に動きまわるようになりました。

9か月のころでした。台所で料理をつくっていたら、いつのまにかすぐうしろまではってきていて、[吓了我一大跳 xià le wǒ yí dà tiào] (びっくり仰天) したこともありました。

京京がこうやってハイハイで自由に動きまわられたのは、日本にいたおかげなのです。じつは、最近の中国の都会の家では、赤ちゃんにはほとんどハイハイをさせていません。なぜなら、中国の生活様式は、家の中でも靴をはき、椅子に座り、ベッドに寝る生活だからです。昔はそれでもハイハイさせていたのですが、一人っ子で大事に育てるようになり、けがや手足の汚れなどを心配して[爬 pá] を省略するようになってしまったのです。したがって、赤ちゃんはずっとベッドの上で寝たり、立ちしたりするだけです。

[十站，一岁走] の時期になると、赤ちゃんの活動はいっそう活発になり、うっかり目を離すとベッドから落ちて思わぬケガをしてしまいます。そこで親はさっそく歩く訓練をさせることとなります。赤ちゃんの両わきを抱えて、床に下ろし、子供をつりさげるようにしながら歩かせるのです。

この時期、両親をはじめ、同居しているおとなたちは、毎日赤ちゃん



の歩行練習のために疲れ果ててしまいます。[学步车 xuébùchē] (歩行器) を使うこともあります。歩く練習のためにはこのような器具もはずさなくてはできません。なにしろ数キロの体重の子供を支えながら、ずっと腰をかがめて歩かせるのですから大変です。

この点、日本の畳の生活はとてもよいものでした。ベッドから落ちる心配もなく、手や足を汚したり、すりむいたりすることもなく、京京は思う存分ハイハイすることができたのです。これはとても幸せなことでした。脳の発達のためにも、健康な体をつくるためにも「爬」をたくさんしておくことは重要なことだと聞いています。

やがて、京京は周囲のものにつかまって、自分から立ち上がるようになりました。

京京站起来了！ Jīngjīng zhànqǐlai le! (京京立ち上がった)

私たちにとっては大きなよろこびでした。京京自身も立てることがうれしらしく、何度もころんだり、尻もちをついたりしながらもキャットキャット笑っては立ち上がることを繰り返していました。

ついのある日、京京は何もつかまらずに、すっくと一人で立ちました。

京京站住了！ Jīngjīng zhànzhù le! (京京しっかり立った)

そして、自信に満ちて1歩、2歩と足を動かしはじめたのです。

京京会走了！ Jīngjīng huì zǒu le! (歩けるようになった)

私たちは拍手喝采しました。[刚才走了两步。Gāngcái zǒu le liǎng bù.] (さっき2歩歩いた)、[这次走了三步。Zhè cì zǒu le sān bù.] (今度は3歩歩いた) と言って、夫も京京が歩数を増やすたびよろこんでいました。

立ち上がって2か月ほどたったとき、もう7、8歩は歩けるようになりました。1歳の誕生日を迎えるころには、歩くことに自信をつけ、保育園でも家でも自由に歩きまわれるようになったのです。京京が親の手を借りることなく自分で歩けるようになったのは、畳の生活のおかげです。

第2章

動詞述語文・形容詞述語文



3歳の京ちゃん、会津で

第2章

動詞述語文・形容詞述語文

🍌 1歳半から2歳は電報文の時期

京京が動詞を言うようになったのは1歳5か月くらいからでした。そのころには [开电视 kāi diànshì] (テレビをつける) と [关电视 guān diànshì] (テレビを消す) がどういうことかわかるようになり、[香蕉皮扔在哪儿? Xiāngjiāopí rēngzài nǎr?] (バナナの皮はどこに捨てるの?) と聞くと、バナナの皮を持ってゴミ箱に捨てに行くようになりました。彼女は自分の口で何かを言うことはできなくても、[扔 rēng] (捨てる) という行為がどういうことなのかわかったのです。

子供が最初に覚え、そして使うようになる動詞はどうしても飲食にかかわることになります。まず、親が子供にいろいろな動詞を言いながら、行為と言葉を示していきます。たとえば、スプーンで離乳食を口に運んでやりながら、[吃吃。Chīchi.] (食べて) と言います。コップに入れたミルクを手に渡して [拿拿。Nána.] (持って) と言い、子供の手とコップを支えて口に運ばせ、[喝喝。Hēhe.] (飲むのよ) と言うのです。

おまるを使わせるときには、[坐盆儿盆儿。Zuò pénpenr.] (おまるに座って) とか [坐坐。Zuòzuo.] (座ってね) などと言います。だっこしてやるときには [妈妈抱抱。Māma bàobao.] (ママがだっこしてあげようね) と言って抱き上げ、テレビや絵本を見るときには [京京看看。Jīngjīng kànkàn.] (京京、見ようね) とか、[看看电视吧! Kànkàn diànshì ba!] (テレビ見ようね) と声をかけます。だっこはやめて自分で歩かせるときには、[走走。Zǒuzou.] (あんよ

してね)とか[我们走走。Wǒmen zǒuzou.] (みんなで歩こうね)と呼びかけます。そのころよく使った動詞をあげてみましょう。

吃吃 chīchi (食べる)	喝喝 hēhe (飲む)
拿拿 nána (持つ)	坐坐 zuòzuo (座る)
站站 zhànzhan (立つ)	抱抱 bàobao (抱く)
看看 kànkān (見る)	走走 zǒuzou (行く)

こうしてみると、動詞も名詞と同じようにすべて重ね型になっています。子供はそれをまねして「…してほしい」「…したい」という意志を示すときに動詞を言うようになります。

京京看看。Jīngjīng kànkān. (京京見るの)

京京玩儿玩儿。Jīngjīng wánwánr. (京京遊ぶの)

吃吃, 京京吃吃。Chīchi, Jīngjīng chīchi. (食べる, 京京食べる)

これは彼女が最初に話した完成された文章です。人名や人称代名詞と動詞がついただけの簡単な文章ですが、中国語はこれだけで完成された動詞述語文になります。このような最もシンプルな文は、おとなでもよく使います。たとえばだれかが中国全土の地図を持ってきて「景徳鎮」はどこかと尋ねたら、私はまずこう言うでしょう。

我看看。Wǒ kànkān. (ちょっと見せて)

日本語は動詞にたくさんの活用形があって、話す内容によっていろいろと変化させなくてはなりません、中国語にはそういうことがないので、こんなに単純な文でも立派な表現になります。京京はだれかに何かをしてもらいたいとき、重ね型の動詞の前にその人の呼び名をつけて、甘えた声で言いました。たとえば北京のやさしいおじさん[大大]に甘えるときは、こう言っていました。

大大抱抱。Dàda bàobao. (おじちゃん, だっこ)

私がよく [京京坐坐。] (京京, 座って) と言うのを聞き、彼女は [京京] を [妈妈] に置き換えて私にここに座ってねと言いました。

妈妈坐坐。Māma zuòzuò.

遠くから車が走ってくると、こう言って教えてくれました。

妈妈, 嘀嘀来。Māma, dīdī lái. (ママ, ブーブー来る)

このような表現は完成された文だとはいえ、たった2, 3の単語からしかなくてないので、あまり簡単すぎてその場にはいないとはっきりした意味はつかめません。このような文のことを [電报句 diànbào jù] (電報文) と言います。漢字の国、中国での電報は文字を [电码 diànmǎ] という通し番号に置き換えて送られますが、できるだけ短い文で内容を伝えるのは日本と同じです。

たとえば出張などで遠方に行っている人に、急用が発生したからすぐ帰ってこいというときは、

急事, 速归。Jí shì, sù guī.

(急用あり, すぐもどれ)

となります。次の文はおわかりになるでしょうか。

母明 28 次接。Mǔ míng èrshíbā cì jiē.

お母さんが明日、28 番の列車で到着するから迎えに来いという意味です。インターネット通信が当たり前になったいま、電報は一般的ではなくなりましたが、子供たちのこうした表現はいまでも「電報文」と言われています。このような、人+動詞の文型は1歳半から2歳のあいだに集中していました。

🎁 「ママ、私これほしいの」と「公園に行って遊んだの」——連動文

2歳の誕生日をすぎると言語表現の欲求はますます強くなり、覚える動詞もどんどん増えていきます。動詞は2音節重ね型から1音節になり、さらに自分を主張する心が芽生えて「我」という代名詞を使うようになります。動詞のあとに目的語をつければ要求はもっと具体的に表現できるようになります。

買い物に連れて行って、何か気に入ったおもちゃやお菓子があると、こう言います。

妈妈，买这个。Māma, mǎi zhèige. (ママ，これ買う)

妈妈，我要这个。Māma, wǒ yào zhèige. (ママ，私これほしい)

家の中の遊びにあきてくると、こう言いました。

我去外边儿。Wǒ qù wàibianr. (私，外に行く)

京京がこう言えば、北京では私に代わって家族のだれかや近所の人が連れて行ってくれます。帰ってくると、私はいつもこう聞いていました。

京京去哪儿玩儿了？ Jīngjīng qù nǎr wánr le?

(京京はどこで遊んだの？)

すると彼女は私の言った文型をそのまま使いました。

我去公园玩儿了。Wǒ qù gōngyuán wánr le.

(私，公園に行って遊んだの)

この文は最初の「京京看看。」「我要这个。」よりずっと複雑で、主語+動詞+目的語+動詞+助詞という構造になっています。このように異なる動作が前後して行われることを表す文を**連動文**といいます。最後の助詞の「了」は、動作が完了したことを示すものです。京京はこのような解説を受けるまでもなく、2歳でごく自然に複雑な文が言えるようになりました。

● 私クマさんの箸でご飯食べたくない——連動文

動詞が二つある文章の二つめの動詞にも目的語はつきます。連動文が言えるようになれば、二つの目的語を使うのも簡単です。京京は「どこへ行って何をどうする」とか「何を使って何をどうする」という表現もスムーズにできました。

3歳のとき、北京に帰る前に、私は彼女に聞きました。

你回北京干什么？

Nǐ huí Běijīng gàn shénme?

(北京に帰って何するの？)

彼女はこう答えました。

我回北京看姥姥。

Wǒ huí Běijīng kàn lǎolao.

(私、北京に帰っておばあちゃんに会うの)

もちろん、こんな質問をする前に私や夫は、[京京回北京看姥姥呀。](京京、北京に帰っておばあちゃんに会おうね)と何度も言っていたのです。わかっていることをわざわざ質問し、答えさせるのは子供の言語表現の発達に役に立ちます。そのために私はよくお遊び形式で質問をしました。

妈妈：京京用什么写字呀？

Jīngjīng yòng shénme xiě zì ya?

(京京は何で字を書いているの？)

京京：用手写字。

Yòng shǒu xiě zì.

(手で書いているの)

妈妈：你用什么画画儿？

Nǐ yòng shénme huà huà'er?

(何を使ってお絵描きしているの？)

京京：用笔画画儿。

Yòng bǐ huà huàr.

(鉛筆で描いてるの)

連動文で、前半の動作が前提条件となって後半の動作が行われる内容の場合、これを否定するときには前の動詞を否定形にします。たとえば「我坐飞机去上海。Wǒ zuò fēijī qù Shànghǎi.」(私は飛行機で上海に行く)の前提条件を否定するときは、「我不坐飞机去上海，坐火车去。Wǒ bú zuò fēijī qù Shànghǎi, zuò huǒchē qù.」(私は飛行機で上海に行くではありません。汽車で行くのです)となります。日本語は「行く」という動詞のほうを否定するので、この違いを注意してください。

京京は、おとなのまねをして、ご飯を食べるときは「筷子 kuàizi」(箸)を使いたがりました。それで私は子供用の箸で、クマの絵のついたものと、ウサギの絵のついたものを買ってやったのです。食事のときはそのどちらかをテーブルに出しておくのですが、京京は私の出す箸がいちいち気に入らず、わがままを言いました。

妈妈，我不用小熊的筷子吃饭。

Māma, wǒ bú yòng xiǎoxióng de kuàizi chī fàn.

(ママ、私クマさんの箸でご飯食べたくない)

そこでウサギのほうを出してやるとおとなしく食べます。ではウサギの箸のほうが好きなのかと思って、翌日はウサギを出しておくど、

妈妈，我不用小白兔的筷子吃饭。

Māma, wǒ bú yòng xiǎobáitù de kuàizi chī fàn.

(ママ、私ウサギさんの箸でご飯食べたくない)

とくるので、翌日はウサギを出してやるとクマでなきやいやだと言うのです。彼女の「不用…吃饭」のために、私は何度台所と

食卓のあいだを往復させられたことでしょう。

